日本建築学会大会学術講演梗概集
（関東） 2020 年 9 月

南あわじ市福良地区における地域生活の共有・継承に向けた事前復興の取り組み

正会員 ○磯村 和樹*1
同 金 玟淑*2
同 槻橋 修*3
同 牧 紀男*4

事前復興 南海トラフ地震 地域生活

１．はじめに

兵庫県南あわじ市福良地区（図 1）は淡路島の南端に位置し、鳴門海峡のうずしお観潮や淡路人形浄瑠璃、3 年養殖トラフグなどが有名な人口 5000 人ほどの地域である。南海トラフ地震で兵庫県最高津波高 8.1m と最大震度 7 が予想されている。

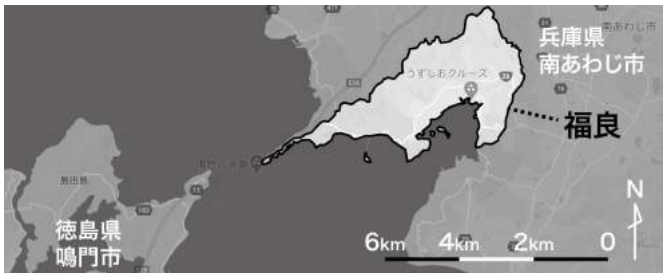

図 1 福良の位置図（地図は Google より引用）

先行研究 [1]では、南海トラフ地震後の適切な復興の方向性の共有のために福良地区で実施した、ジオラマ模型ワークショップを用いた地域生活の把握について報告した。

本稿では、そのワークショップで把握した豊かな地域の生活を、想定される津波災害にむけていかに共有し、継承していくか、その後検討・実践した経過やその反響を報告し、地域生活の共有・継承にむけた事前復興対策の進め方の一例を示すことを目的とする。

大きく、整理した地域の生活に関する情報をまとめ人気投票を行う展示会「ふくらいふ展」と、投票結果を踏まえた事前復興まちづくりの「提案報告＋意見交換会」の２つを実施した（表 1）。

表 1 対象地域での取り組みの概要

ふくらいふ展
実施日時：2019年6月1~9日 10~20時 **会場**：福良地区公民館2階 205号室 **参加対象者**：福良地区住民（主に、自治会に入っている世帯に、チラシを回覧板で全戸回覧し広報を行なった） **参加人数**：206名（全地区住民 約5000人の4%ほど） **実施内容**： ・福良地区の魅力・課題・それらを踏まえたまちづくりの目標や対策案等の展示 ・展示された魅力・課題・目標・対策の中で良いと思った、興味を持ったものへの投票
提案報告＋意見交換会
実施日時：2020年1月18日 15~17時 **会場**：南あわじ市立図書館 2F視聴覚室 **参加対象者**：福良地区の各自治会の幹部＋公民館職員 **参加人数**：15名（全自治会の2~3割ほど） **実施内容**： ・研究者・学生からのそれまでの調査結果を踏まえた提案報告 ・興味のある提案への投票 ・票数の多かった提案についての議論 ・議論結果の発表・共有 ・専門家からコメント

２．取り組みの内容

２−１．ふくらいふ展

ふくらいふ展は、ジオラマ模型ワークショップをはじめとするそれまでの調査研究成果（福良の魅力や課題）とそれを踏まえた提案を住民に共有し、意見を聞くことを目的として開催した展示会である。具体的には、４つの展示（ふくらいふマップ・ふくらリスクマップ・ふくらいふプラン（案）・メッセージボード）を行った（図 2）。

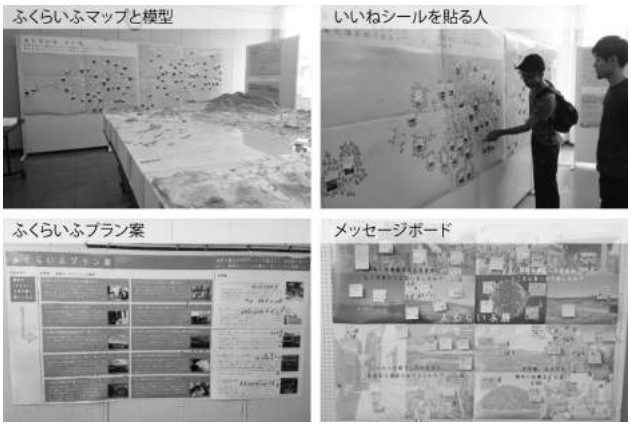

図 2 ふくらいふ展の写真

「ふくらいふマップ」では、2017 年に福良のジオラマ模型を住民の方々に見せながら聞き取った [1]福良の魅力「ええとこ」を地図や文章等にまとめたパネルを、聞き取りに使った模型とともに展示した。ふくらリスクマップ」では、福良の暮らしの課題として、 (1)人口減少・高齢化、(2)災害(地震・津波・土砂災害・ 火災)、(3)災害後の避難~復興を提示し、それらによって生じる様々な課題をまとめた。ただし、「津波の恐怖で精神的に不安定になっている住民がいる」との情報があり、積極的に展示できなかったという課題がある。「ふくらいふプラン（案）」では、ふくらいふマップでまとめた「ええとこ」を、ふくらリスクマップでまとめた様々な課題を乗り越え、継承していくために、どうすべきか、研究者・学生が検討した目標案や対策案をまとめて展示した。メッセージボードでは、展示の感想を来場者に付箋に書いてもらい、パネルに貼ってもらった。

来場者には良いと思った / 興味を持った魅力や課題、目標、対策案、メッセージがあれば「いいねシール」を貼ってもらい、より好感・興味を持つプランを探った。

成果としては、計 9 日間の展示で、206 名の来場者か

Activities for bridging community life in pre- and post-disasters in Fukura District, Minamiawaji City

ISOMURA Kazuki, KIM Minsuk, TSUKIHASHI Osamu, MAKI Norio

ら、合計 1374 枚のいいねシールと、45 枚のメッセージカードを得た。来場者に展示内容について共有できたことが伺える。いいねシールの数の合計の多いものを集計すると図 3 のようになった。「ええとこ」では、「お祭り」など 、まちづくりの目標としては、「歴史ある伝統や産業を守り伝えよう」など、来場した住民に特に人気がある魅力や目標が確認できた（図 3)。

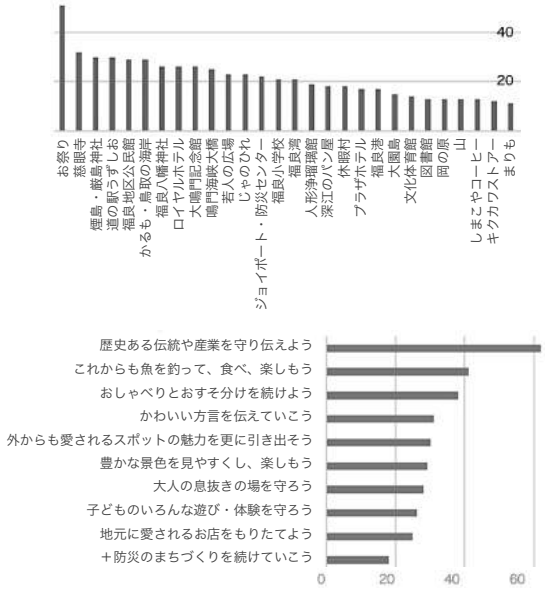

図 3 いいね数の多かった魅力(上)と目標案(下)

2−2．提案報告＋意見交換会

ふくらいふ展で特に人気のあった魅力を継承していくためのより具体的な提案を、住民から聞かれた課題に対する提案と合わせて研究者・学生で考え、その提案（図 4) 10 個の報告と意見交換を行った。

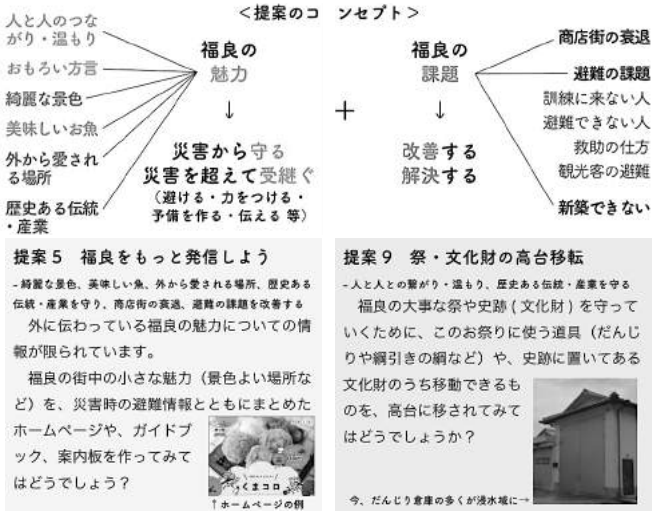

図 4 提案のコンセプトと提案例

各提案に対して投票し、票数の多い 3 案を選んだ。そしてその 3 案について、参加者同士で議論した。また、議論内容を発表し合い、それぞれの発表について防災・都市計画の専門家がコメントをした（図 5)。そのような流れの中で、まちづくりのより具体的な方向性を検討することができた。

参加者からの感想としては、参考になった、やってみたいと思った提案があった、という意見が大半をしめており、好評を得ていた（図 6)。

図 5 提案報告＋意見交換会の流れ

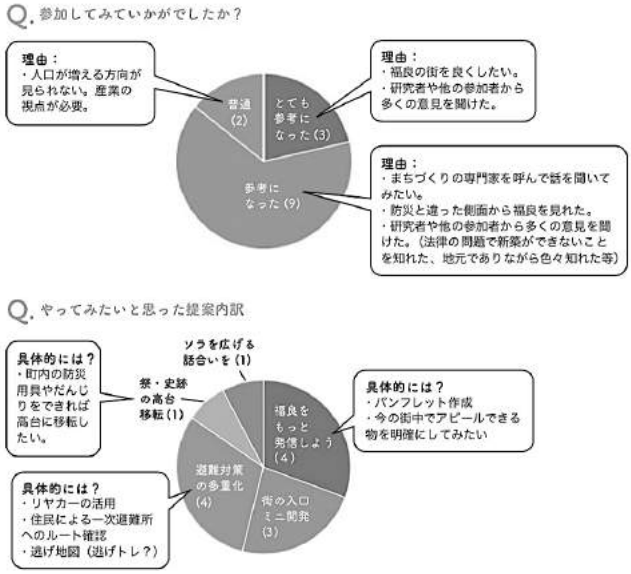

図 6 アンケート結果

3．まとめ

今後は意見交換の結果を踏まえ、地域生活の継承に向けた検討・実践を続けていく。

参考文献・注

1) 磯村和樹, 牧紀男, 槻橋修: 津波被災想定地域における地域生活像の事前把握手法に関する研究 – 兵庫県南あわじ市福良地区における「失われない街」プロジェクト –, 日本災害復興学会論文集, No.13, pp21-30, 2019.2

*1 ひょうご震災記念 21 世紀研究機構 工博
*2 京都大学防災研究所 民間等共同研究員・建築博
*3 神戸大学大学院工学研究科 准教授・工博
*4 京都大学防災研究所 教授・工博

*1 Hyogo Earthquake Memorial 21st Century Research Institute, Dr. Eng.
*2 Researcher, DPRI Kyoto University, Dr.Arch.
*3 Assoc.Prof., Graduate School of Engineering, Kobe University, Dr.Eng.
*4 Prof., DPRI Kyoto University, Dr.Eng.